

別表－2

## レディーミクストコンクリート標準使用基準

[港湾工事]

(平成26年4月1日以降公告閲覧の工事から適用)

無筋及び鉄筋別	構造物の種類	セメントの種類	呼び強度(N/mm <sup>2</sup> )	スランプ(cm)	粗骨材最大寸法(mm)	最小セメント使用量(kg/m <sup>3</sup> )	最大水セメント比(%)	備考
無筋コンクリート	管渠固定基礎、中詰コンクリート、中詰ブロック、均し・捨てコンクリート、その他耐久性の必要度小の構造物	高炉セメント(B種)	18	8	40	—	65	
	本体ブロック、防波堤上部工、ケトン蓋、根固ブロック袋詰コンクリート、異形ブロック(消波、被覆)(35t型未満)、直立消波ブロック	〃	18	8	40	—	65	W/C60%と単価が同一の場合は、W/C60%を使用
	係船岸上部工、胸壁、水叩き、係船直柱基礎(重力式)、擁壁、暗渠、控壁	〃	18	8	40	—	60	
	異形ブロック(消波、被覆)(35t～50t型)	〃	21	8	40	—	65	
	エポキシ舗装	〃	曲げ4.5	2.5	40	—	—	
	水中コンクリート	〃	30	15	40	370	50	
鉄筋コンクリート	係船岸上部工、胸壁、渡橋、防波堤上部工、床版、控杭上部工、控壁、係船柱基礎(杭式)	〃	24	12	25	—	60	許容塩化物量 0.30kg/m <sup>3</sup> 以下
	消波ブロック	〃	24	12	25	—	55	
	ケトン、ウエル、セルラーブロック、L型ブロック、栈橋の橋柱、栈橋上部工	〃	24	12	25	—	50	

- 注) 1)ケトン蓋は、フレキスト蓋を含む。  
 2)50tを超えるブロックについては、適宜検討する。  
 3)舗装厚が10cmのエポキシ舗装は、最大骨材寸法を25mmとする。  
 4)臨港道路等で海水及び飛来塩分の影響が軽微と判断される場合は、「レディーミクストコンクリート標準使用基準(土木工事)」によること。  
 5)栈橋上部工については、既設の劣化等により、適宜検討する。  
 6)別表は、あくまで標準であり、現地の状況やブロックの形状等により判断し、コンクリートの配合を決定すること。

- 7)鉄筋コンクリート構造物のうち橋梁等の重要構造物や補修の困難な構造物等では、鋼材の腐食対策のため、エポキシ樹脂塗装鉄筋の利用やコンクリート表面の被覆、電気防食の必要性についても検討をすること。  
 8)無筋コンクリートのケトン蓋で、コンクリートの打込み後、初期材齢で波浪の衝撃、冠水のおそれがある場合や寒冷期に施工する場合等では、圧縮強度の特性値を24N/mm<sup>2</sup>とすることができる。  
 9)鉄筋コンクリートで耐久性を考慮して、最大水セメント比を50%以下に設定する場合は、圧縮強度の特性値として30N/mm<sup>2</sup>を用いることができる。  
 10)上記以外は「レディーミクストコンクリート標準使用基準(土木工事)」によること。

[空港工事]

無筋及び鉄筋別	構造物の種類	セメントの種類	呼び強度(N/mm <sup>2</sup> )	スランプ(cm)	粗骨材最大寸法(mm)	最小セメント使用量(kg/m <sup>3</sup> )	最大水セメント比(%)	備考
無筋コンクリート	空港エポキシ舗装	普通ポルトランドセメント 又は高炉セメント(B種)	曲げ5.0	2.5	40	—	50	

- 注) 1)コンクリート版の厚さが30cmを超える場合は、粗骨材の最大寸法を50mmとすることができる。  
 2)やむを得ず手仕上げ或いは簡易な機械による施工をおこなう場合、スランプを6.5cmとすることができる。  
 3)その他、空港土木工事共通仕様書、空港土木施設施工要領によること。  
 4)上記以外は「レディーミクストコンクリート標準使用基準(土木工事)」によること。